



出典：三浦市 HP 内「土砂災害ハザードマップ」より作成

■ 図 1-6-2 土砂災害警戒区域、急傾斜地崩壊危険区域、活断層、避難地・避難所の現況

7. 都市づくりの課題と今後の方向性

ここまでの三浦市全体における「現況と課題」を、都市づくりの視点で7つのテーマに整理しました。持続可能で活力ある都市づくりを進めるためには、これらの「都市づくりの課題」を解決していく必要があります。

(1) 三浦市の持つ『資産』の継承

三浦市は都心から電車・自動車いずれを利用しても約1時間半程度の距離にありながら、広大な砂浜、干潟、岩礁等、変化に富んだ海岸線や小網代の森といった豊かな自然環境や畑地の広がる地域です。また、「みなとまち」の風情のある看板建築や蔵、町屋など昭和を感じさせるまちなみも残っています。こうした良好な自然環境や景観を保全するため、風致地区、生産緑地地区、景観計画などを三浦市では定めています。

三方を海で囲まれた三浦市は、全国的に有名な「三崎のまぐろ」をはじめとした水産業（漁業）が盛んで、三浦市低温卸売市場や造船所などの漁港関連施設が集積しています。また温暖な気候を活かしダイコンやキャベツ等の生産性の高い農業を、他都市と比較して格段に若い世代が中心になり展開しています。三浦市は、これら「三崎のまぐろ」やダイコン・キャベツなどに代表される「食」として質の高いブランドを有しています。

こうした自然環境や景観、活気ある基幹産業、「食」としてのブランドを活かしたシティセールスにより、年間約630万人の観光客が三浦市を訪れています。

このように三浦市には、他都市に誇れるたくさんの資産があり、これらの資産を活用し、高め、未来へ継承していくことが必要です。

(2) 人口減少・超高齢社会への対応

平成7年から続く人口減少や、県内他都市以上に進む高齢化により、「地域の活力」の低下、人口密度の低下に伴う商業施設等の縮小・撤退、空き家の更なる増加が懸念されています。特に三崎地区での人口減少や高齢化が顕著で課題になっています。

三浦市の基幹産業である水産業（漁業）では、就業者の高齢化が進んでおり、後継者の確保が課題になっています。

また、生産年齢人口の減少に伴う税収減や、高齢化の進行に伴う医療福祉関係費の増加など、健全な市政運営を行っていく上での課題も発生しています。

こうした人口減少、超高齢社会に伴う様々な問題に対応していくことが必要です。

(3) 交流人口による「地域の活力」の創造

持続可能で活力ある都市づくりを進めるのは、その都市に住んでいる人、事業者とは限りません。人口減少が進む中で、観光客や二地域居住者といった交流人口を拡大させることで、人口減少の影響を緩和し、消費の拡大や基幹産業の活性化などを目指す動きが広がりを見せています。

三浦市では、観光施設や海水浴場といったレジャー施設に加え、直売所や飲食店など基幹産業である水産業（漁業）や農業を活かした観光も盛んになっています。近年は、レンタサイクルやバスのフリー切符などを活用した周遊観光が広がっています。

また、観光での訪問をきっかけに、トライアルステイなどを経て、三浦市へ移住する人も近年見られ、店舗などを開業するケースもあります。

こうした様々な取組が功を奏し、観光客数が増加傾向にある三浦市においては、交流人口を活用し「地域の活力」を創造していくことが必要です。

(4) 低・未利用地の利活用

豊かな自然環境は三浦市の『資産』であり、市域面積の50%以上を占める畑や山林などの土地利用はこのまま保全していく必要がありますが、その反面、それ以外の土地利用については、より効果的な土地利用が必要です。

しかし、市街化区域内には、二町谷地区、引橋地区、城山地区、三戸小網代地区、入江地区など、利活用が望まれるまとまった低・未利用地が複数存在しています。区域区分の見直しや地区計画等を活用し、市域全体の活性化につながる土地利用が求められています。

(5) 安全で安心な環境づくり

糸魚川市大規模火災やこれまでの想定を超える東日本大震災の地震・津波、異常気象による豪雨など、近年、大規模な災害が発生しています。

三浦市は、その立地や地形特性からこうした災害の危険性を十分に認識しなければならず、様々な場面で市民への普及啓発活動を行っています。また、急傾斜地崩壊危険区域の対策工事や、災害時の海上輸送の拠点となる三崎漁港の緊急物資等の受け入れ岸壁の耐震化などが進められています。一方で、市内全域に広がる土砂災害警戒区域、狭隘道路や老朽化した木造建物が多数立地する三崎下町の密集市街地、屋外タンク貯蔵所などの危険物施設といった身近に潜む危険も多く存在し、それらへの対応が十分とはいえない状況です。

今後いつ発生するか分からないこれらの災害に対し「減災」の視点に立つただけ早い対応が必要です。

(6) 都市を支える交通基盤の整備

自動車交通は、三浦市を縦断する国道134号及び県道26号（横須賀三崎）への依存度が高く、土日祝日などには三浦市の中心部である引橋交差点を中心に交通渋滞が発生しています。主要幹線道路であり災害時の緊急輸送路である三浦縦貫道路Ⅱ期区間、都市計画道路西海岸線は未整備区間を残しています。

鉄道の運行は三浦市の北西部までで止まり、三崎口駅以南は路線バスに頼っている状況です。公共交通利便性が高いとは言えないエリアもあります。

人口減少により公共交通の維持は難しくなる一方で、鉄道やバスを利用する観光客が増加しており、新たなバスルートやルートの延伸などにも取り組まれています。一方で、既存の駅前広場の規模とバスの運行状況から、観光客が鉄道からバスへのスムーズな乗り換えができない、といった課題も発生しています。

今後、超高齢社会において公共交通への依存度が高くなることが想定されます。都市を支える土台であり、市民生活、企業活動、交流人口の拡大などに必要不可欠な交通基盤を確実に担保していくことが必要です。

(7) 公共施設の老朽化と再編

全国的に公共施設の老朽化が課題となっています。三浦市では、老朽化していたし尿処理施設については、新たに三浦バイオマスセンターが整備され、民間運営が進められています。ごみ処理施設についても老朽化が進んでおり、最終処分場も残存量が逼迫していることから、今後の安定したごみ処理を行うため、横須賀市とのごみ処理広域化を進めています。また、老朽化がすすむ道路や橋梁についても、修繕工事が行われています。

依然として三浦市は厳しい財政状況にあります。こうした中、整備方針に基づく公園整備などについても、計画の見直しや整備を進められないといった状況にあります。

三浦市では公共施設の適切な維持管理や施設保有量の最適化を目指し、「三浦市公共施設等総合管理計画」を策定しています。今後、引き続き人口減少、厳しい財政状況が想定される中、この計画をふまえ、公共施設の適正な規模や配置について見直すとともに、長寿命化を推進する維持管理を行うことが必要です。